

国際シンポジウム・パネリスト報告・2

「環日本海」その夢と実現の間に

キム ヨン ホ
金 泳 鎬 (韓国慶北大学教授)

I. はじめに

- *90年代初頃の青い夢と今現在の厳しい現実
- *現実の壁にぶつかり、夢は段々薄くなりつつあるのではないか？
- *壁を乗り越える条件は？

II. 去る10年の歩みと反省

- *前期：80年代後半以前
- *80年代の後半：夢の芽生える時期
- *1992年以後：夢が現実になる兆しと動き
- *90年代の後半：「ミサイルの海」、「場当たりの外交」で全体のデザインが見当たらない
- *90年代は地域主義の時代（世界で61件の地域協力条約が結ばれる）でありながら、新しい同盟の時代でもあった（Strategic Alliance のブーム）
- *離陸のための前提条件（Precondition for Take-off）

III. 避けて通れない壁

- ①ネーミングの問題：リアリティよりイメージのほ

うが近い

- ②歴史の影：「日本の保守化」のコストは高すぎる
- ③政治・軍事的な条件：「Natural Economic Territory」
としてのポテンシャルは静か過ぎる
- ④領土紛争の問題：経済のボーダレス化と政治のボーダブル化（国家主義）との衝突

IV. 飛ぶ翼はあるはず——飛ばなければ壁にぶつかる——

- ①ネーミングの壁：新しい袋、新しいイメージが新たなエネルギーを生み出す
- ②歴史の壁：歴史の負の遺産を21世紀のための正の資産にすること
- ③政治・軍事的な壁：Kant—J.Monnet 効果
Local—to—Local Asia への道
- ④領土紛争の壁：ルールとザール・モデル

→21世紀は来てくれるものではなく、向かって飛んで行くべきものである。